

平成 25 年度 病院の経営状況について

福祉医療機構のデータに基づき、平成 25 年度の病院の経営状況について分析を行ったところ、機能性では、「病床 1 床あたり年間医業収益」は一般病院で前年度比 3.6% 増加するものの、療養型病院では 0.6%、精神科病院では 0.3% の増加にとどまった。

収支状況では、人件費をはじめとする各費用増もあり、「経常収益対経常利益率」は一般病院で前年度比 1.3 ポイント低下し 2.3%、療養型病院で 0.4 ポイント低下し 6.0%、精神科病院で 1.0 ポイント低下し 2.7% と利益は軒並みマイナス傾向となった。また、各病院類型ともに年々赤字病院の割合は増加し、一般病院では約 4 割が赤字となった。

財務状況では、一般病院で「固定資産」や「固定負債」の増加など投資の増加傾向がみられるものの、療養型病院、精神科病院では特に大きな動きはみられなかった。

回復期リハビリテーション病院では、従事者数の増加に伴い、機能性は経年で向上している。また、回復期リハビリテーションに専門特化することでさらに利益率は上昇するほか、病床規模については当機構のデータでは、「100 床以上 199 床以下」の経常利益率が最も高くなっている。

平成 25 年度は診療報酬改定の狭間であったが、前年度と比較し全般的に厳しい経営状況と認識される結果となった。

はじめに

福祉医療機構では毎年度、貸付先病院の経営状況等について調査を行っている。このほど、平成 25 年度の病院（開設後 1 年未満の病院、医育機関附属病院および医師会立病院を除く）の経営状況に関する調査結果について分析を行った。

1. 調査の概要

当機構では病院を「一般病院」、「療養型病院」および「精神科病院」の 3 種類に分類したうえで各種分析を行っている。それぞれの病院につ

いては図表 1 のように定義している。なお、今回の調査対象の中から有効データとして採用したのは、1,698 病院であり、内訳は一般病院 822 施設、療養型病院 582 施設、精神科病院 294 施設となった。

参考までに、厚生労働省が 2 年に 1 度実施し公表を行っている「医療経済実態（平成 25 年度実施）」における病院の有効回答数は 1,429 施設（特定病院等を除く）となっており、今回分析に用いたサンプル数としては十分であるものと思料される。

（図表 1）病院類型の定義

- ・一般病院：全病床に占める一般病床の割合が 50% 超
- ・療養型病院：全病床に占める療養病床の割合が 50% 超
- ・精神科病院：全病床に占める精神病床の割合が 80% 以上



2. 機能性の状況

平成 25 年度における一般病院、療養型病院および精神科病院の経営状況について、まずは機能性からみていくこととする。各病院類型の平成 24 年度および平成 25 年度の機能性の状況は、図表 2 のとおりとなっている。

(1) 一般病院の機能性

【「病床 1 床あたり年間医業収益」は前年度比 3.6%増加】

一般病院について、「平均在院日数」は 0.6 日短縮したこと等もあり、「入院患者 1 人 1 日あたり医業収益」は 3.9%増加し 45,319 円とな

った。その結果、「病床 1 床あたり年間医業収益」は前年度比 3.6%増加の 19,110 千円となった。平成 24 年 4 月の診療報酬改定後の 2 年目にあたり、各病院とも機能性向上のために様々な対策を講じた結果、収益も増加したものととらえることができる。一般病院における「病床 1 床あたり年間医業収益」は年々増加傾向にあるが、厳格化されていく各種算定要件等を勘案すると、その一方で淘汰され廃院もしくは他病床への転換を余儀なくされている病院も少なくないものと推測される。

(図表 2) 病院類型別の機能性

| 区 分 | 一般病院 | | | | 療養型病院 | | | | 精神科病院 | | | | |
|--------------------|--------------------|--------|--------------|--------------------|--------|--------|--------------|--------------------|--------|--------|--------------|--------------------|------|
| | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 (ポイント) | 対前年度 増減率 (%) | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 (ポイント) | 対前年度 増減率 (%) | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 (ポイント) | 対前年度 増減率 (%) | |
| 施設数 (施設) | 834 | 822 | - | - | 592 | 582 | - | - | 314 | 294 | - | - | |
| 平均病床数 (床) | 182.4 | 186.8 | 4.4 | 2.4 | 147.8 | 148.8 | 1.0 | 0.7 | 281.7 | 284.8 | 3.1 | 1.1 | |
| 病床利用率 (%) | 80.6 | 80.3 | 0.3 | - | 92.1 | 91.5 | 0.6 | - | 91.5 | 91.2 | 0.3 | - | |
| 平均在院日数 (日) | 20.8 | 20.2 | 0.6 | 2.9 | 101.5 | 102.5 | 1.0 | 1.0 | 289.6 | 282.0 | 7.6 | 2.6 | |
| 入院外来比 | 1.90 | 1.88 | 0.02 | 1.1 | 0.55 | 0.53 | 0.02 | 3.6 | 0.32 | 0.32 | 0.00 | 0.0 | |
| 新患率 (%) | 10.4 | 10.2 | 0.2 | - | 7.6 | 7.7 | 0.1 | - | 2.9 | 2.5 | 0.4 | - | |
| 1日平均患者数 | 入院 (人) | 147.0 | 149.9 | 2.9 | 2.0 | 136.1 | 136.2 | 0.1 | 0.1 | 257.7 | 259.8 | 2.1 | 0.8 |
| | 外来 (人) | 279.6 | 281.6 | 2.0 | 0.7 | 74.8 | 72.8 | 2.0 | 2.7 | 82.6 | 82.3 | 0.3 | 0.4 |
| 病床1床あたり年間医業収益 (千円) | 18,442 | 19,110 | 668 | 3.6 | 9,384 | 9,443 | 59 | 0.6 | 6,006 | 6,022 | 16 | 0.3 | |
| 患者1人1日あたり医業収益 | 入院 (円) | 43,597 | 45,319 | 1,722 | 3.9 | 21,968 | 22,396 | 428 | 1.9 | 15,161 | 15,319 | 158 | 1.0 |
| | (うち室料差額) (円) | (977) | (994) | 17 | 1.7 | (360) | (368) | 8 | 2.2 | (194) | (216) | 22 | 11.3 |
| | 外来 (円) | 10,744 | 11,338 | 594 | 5.5 | 8,655 | 8,681 | 26 | 0.3 | 9,192 | 9,182 | 10 | 0.1 |
| 1施設あたり従事者数 | 医師 常勤 (人) | 21.4 | 22.6 | 1.2 | 5.6 | 5.2 | 5.1 | 0.1 | 1.9 | 7.4 | 7.6 | 0.2 | 2.7 |
| | 医師 非常勤 (人) | 5.3 | 5.5 | 0.2 | 3.8 | 2.6 | 2.7 | 0.1 | 3.8 | 2.7 | 2.8 | 0.1 | 3.7 |
| | 看護師・准看護師・看護補助者 (人) | 145.6 | 153.1 | 7.5 | 5.2 | 92.4 | 92.8 | 0.4 | 0.4 | 131.7 | 134.3 | 2.6 | 2.0 |
| | その他 (人) | 107.3 | 115.7 | 8.4 | 7.8 | 54.9 | 57.8 | 2.9 | 5.3 | 54.7 | 54.8 | 0.1 | 0.2 |
| | 計 (人) | 279.5 | 297.0 | 17.5 | 6.3 | 155.0 | 158.4 | 3.4 | 2.2 | 196.4 | 199.6 | 3.2 | 1.6 |
| 患者規模100人あたり従事者数 | 医師 常勤 (人) | 8.9 | 9.3 | 0.4 | 4.5 | 3.2 | 3.2 | 0.0 | 0.0 | 2.6 | 2.7 | 0.1 | 3.8 |
| | 医師 非常勤 (人) | 2.2 | 2.3 | 0.1 | 4.5 | 1.6 | 1.7 | 0.1 | 6.3 | 0.9 | 1.0 | 0.1 | 11.1 |
| | 看護師・准看護師・看護補助者 (人) | 60.6 | 62.8 | 2.2 | 3.6 | 57.3 | 57.8 | 0.5 | 0.9 | 46.2 | 46.8 | 0.6 | 1.3 |
| | その他 (人) | 46.5 | 49.2 | 2.7 | 5.8 | 34.7 | 36.6 | 1.9 | 5.5 | 19.6 | 19.5 | 0.1 | 0.5 |
| | 計 (人) | 118.2 | 123.6 | 5.4 | 4.6 | 96.9 | 99.3 | 2.4 | 2.5 | 69.3 | 69.9 | 0.6 | 0.9 |

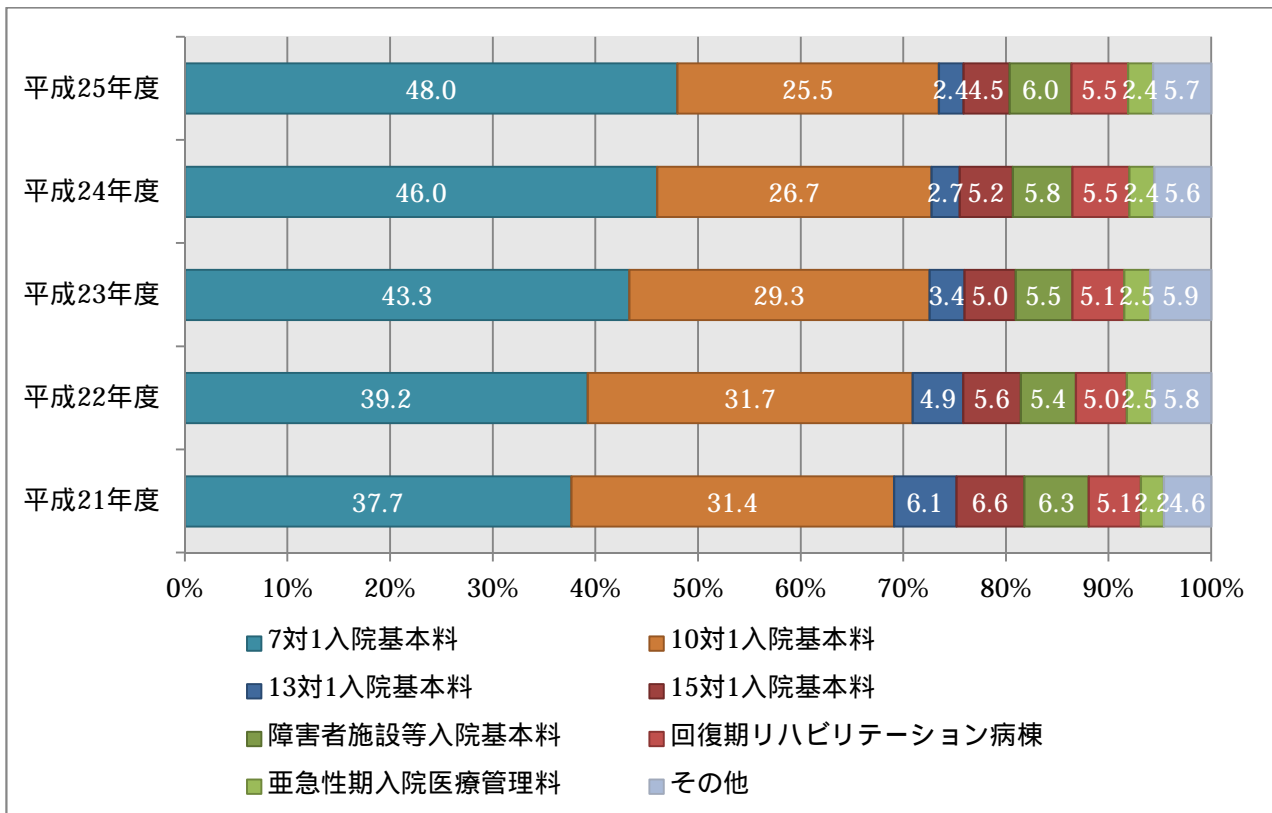
注 1) 「1施設あたり従事者数」および「患者規模 100 人あたり従事者数」は、常勤従事者数(非常勤従事者の常勤換算後の従事者数を含む)により算出 注 2) 数値は四捨五入のため、内訳の合計が合わない場合がある 資料出所：福祉医療機構(以下表記がない場合は同じ)

次に従事者数については、「1施設あたり従事者数」の計で17.5人増加し、「患者規模100人あたり従事者数」の計で5.4人増加している。「平均病床数」が前年度より4.4床増加したこと、また図表3のとおり、一般病床において7対1入院基本料を算定している割合が高まっていることに起因するものと考えられる（実際、

有効データでは7対1入院基本料を算定している病床数そのものも増加している）。

平成26年4月の診療報酬改定では、7対1入院基本料を中心に算定要件の更なる厳格化が実施されている。果たして平成26年度では機能性や従事者数にどのような影響を及ぼすのか、引き続き注目されることである。

（図表3）一般病床における入院基本料等の算定割合の推移



注1) その他は、特定集中治療室管理料(ICU)、特殊疾患入院医療管理料、特殊疾患病棟入院料、NICU等各種集中治療室(ICUは除く)等 注2) 構成比率は、病床数により算出

（2）療養型病院の機能性

【「病床1床あたり年間医業収益」は前年度比0.6%増加にとどまる】

療養型病院については、「病床利用率」は前年度より0.6ポイント低下したものの、「入院患者1人1日あたり医業収益」は1.9%増加し22,396円となった。その結果、「病床1床あたり年間医業収益」は前年度比0.6%増加にとどまり、ほぼ横ばいの9,443千円となった。

次に従事者数については、「1施設あたり従事

者数」の計で3.4人増加し、「患者規模100人あたり従事者数」の計で2.4人の増加となっている。

これらの背景の一部には図表4のとおり、療養病床において回復期リハビリテーション病棟を算定している割合が高まっていることが考えられる（実際、有効データでは回復期リハビリテーション病棟を算定している病床数そのものも増加している）。一般的な療養病床に比べ高収益、高コストである回復期リハビリテ

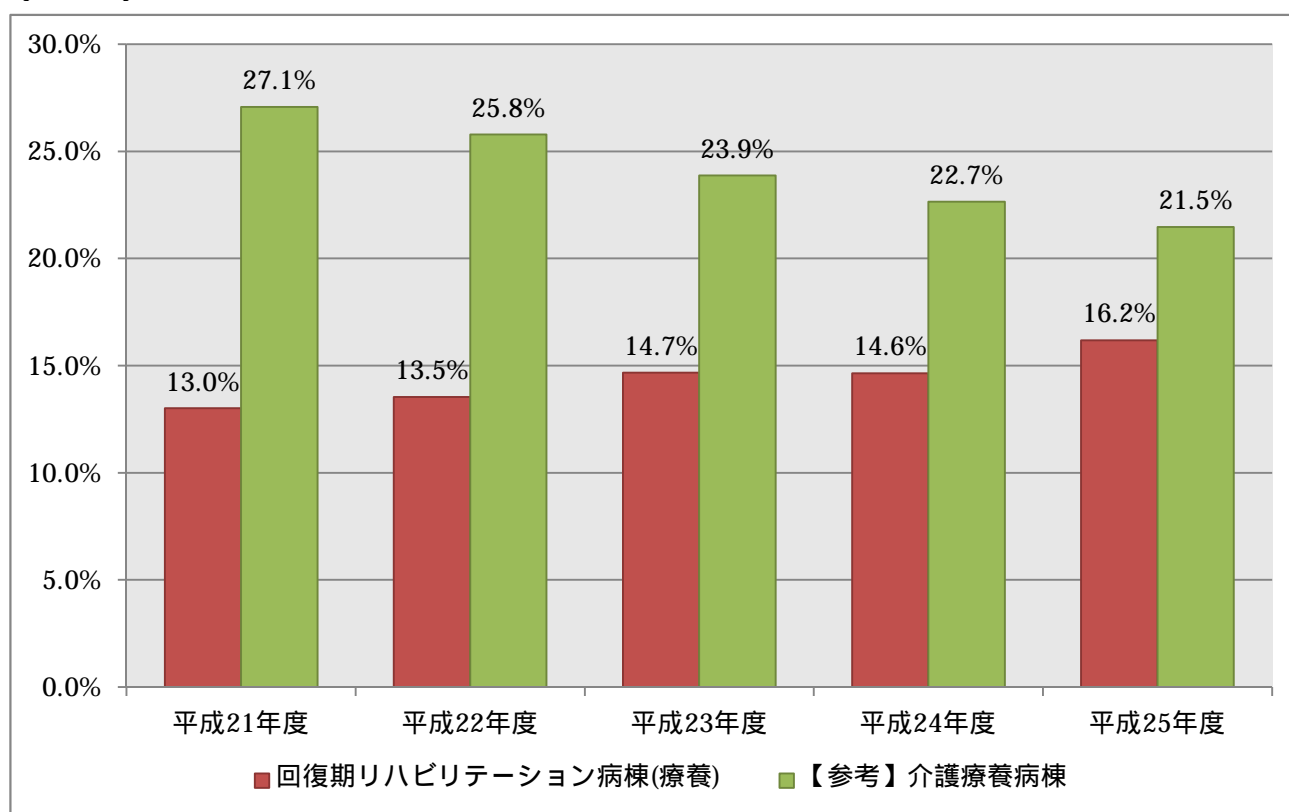
ーション病棟へのシフトがもたらした結果と
思料される。

また参考までに、介護療養病棟を算定する割
合については、年々低下傾向となっている。平
成 24 年度以降新設が認められていないこと、
またその行く末が不明瞭であることに起因し

ているものと考えられる。

さらに平成 26 年 4 月の診療報酬改定におい
ては、地域包括ケア病棟等も新設されており、
療養病床における構成図に新たな変化をもた
らすものと推測される。

(図表 4) 療養病床に占める回復期リハビリテーション病棟・介護療養病棟割合の推移



注) 構成比率は、病床数により算出

(3) 精神科病院の機能性

【「病床 1 床あたり年間医業収益」は前年度 比 0.3%増加にとどまる】

精神科病院については、「病床利用率」は前
年度より 0.3 ポイント低下したものの、「入院
患者 1 人 1 日あたり医業収益」は 1.0%増加し
15,319 円となった。その結果、「病床 1 床あた
り年間医業収益」は前年度比 0.3%増加にとど
まり、ほぼ横ばいの 6,022 千円となった。

次に従事者数については、「1 施設あたり従事
者数」の計で 3.2 人増加し、「患者規模 100 人
あたり従事者数」の計で 0.6 人増加となってい
る。

平成 24 年 4 月の診療報酬改定では、地域移
行の推進として救急や認知症等における連携
促進に関する評価項目も設定されたが、経年比
較において特に大きな変化はみられなかった。



3. 収支の状況

各病院類型における平成 24 年度および平成 25 年度の 100 床あたりの収支状況については図表 5、病院類型別の収支状況（構成比等）については図表 6 のとおりとなっている。

（1）一般病院の収支状況

【「経常収益対経常利益率」は 2.3% に低下】

一般病院については、前述のとおり機能性の向上が反映され、「100 床あたりの入院収益」は前年度比で 3.5%、「100 床あたりの外来収益」は 3.9% 増加した。一方、経費の面では「100 床あたり人件費」は、前年度比で 5.0%、「100 床あたり医療材料費」は 6.7%、「100 床あたり

給食材料費」は 2.2%、「100 床あたり経費」は 4.1%、「100 床あたり減価償却費」は 6.7% と軒並み増加している。収益と費用を金額ベースに換算すると、「100 床あたりの医業収益合計」は 66,899 千円増加、「100 床あたりの医業費用合計」は 93,829 千円増加となった。結果として、「医業収益対医業利益率」は、前年度より 1.5 ポイント低下し 1.8%、「経常収益対経常利益率」は、前年度より 1.3 ポイント低下し 2.3% となった。機能性の向上により収益は増加したものの、それ以上に人件費をはじめとする各種費用も増加したことより、利益率は前年度比で低下するものとなった。

（図表 5）100 床あたりの収支状況（病院類型別）

（収益と費用の単位：千円）

| 区分 | 一般病院 | | | | 療養型病院 | | | | 精神科病院 | | | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|-------------|---------|---------|---------|-------------|---------|---------|---------|-------------|-------|-----|
| | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 | 対前年度増減率 (%) | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 | 対前年度増減率 (%) | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 | 対前年度増減率 (%) | | |
| 施設数 | 834 | 822 | - | - | 592 | 582 | - | - | 314 | 294 | - | - | | |
| 平均病床数 | 182.4 | 186.8 | - | - | 147.8 | 148.8 | - | - | 281.7 | 284.8 | - | - | | |
| 収益 | 医業収益 | 入院収益 | 1,282,375 | 1,327,664 | 45,289 | 3.5 | 738,670 | 748,404 | 9,734 | 1.3 | 506,372 | 510,122 | 3,750 | 0.7 |
| | | 外来収益 | 485,501 | 504,335 | 18,834 | 3.9 | 125,470 | 121,122 | 4,348 | 3.5 | 76,294 | 75,073 | 1,221 | 1.6 |
| | | その他の医業収益 | 76,070 | 78,846 | 2,776 | 3.6 | 74,134 | 74,842 | 708 | 1.0 | 17,971 | 17,103 | 868 | 4.8 |
| | 計 | 1,843,946 | 1,910,845 | 66,899 | 3.6 | 938,274 | 944,368 | 6,094 | 0.6 | 600,638 | 602,297 | 1,659 | 0.3 | |
| 医業外収益 | 42,055 | 43,259 | 1,204 | 2.9 | 19,498 | 20,589 | 1,091 | 5.6 | 16,490 | 15,913 | 577 | 3.5 | | |
| 合計 | 1,886,001 | 1,954,105 | 68,104 | 3.6 | 957,772 | 964,956 | 7,184 | 0.8 | 617,128 | 618,210 | 1,082 | 0.2 | | |
| 費用 | 医業費用 | 人件費 | 945,769 | 993,252 | 47,483 | 5.0 | 535,934 | 547,101 | 11,167 | 2.1 | 363,139 | 369,269 | 6,130 | 1.7 |
| | | 医療材料費 | 383,491 | 409,352 | 25,861 | 6.7 | 86,958 | 83,969 | 2,989 | 3.4 | 48,702 | 48,394 | 308 | 0.6 |
| | | 給食材料費 | 32,211 | 32,926 | 715 | 2.2 | 33,462 | 33,251 | 211 | 0.6 | 31,076 | 31,214 | 138 | 0.4 |
| | | 経費 | 328,171 | 341,649 | 13,478 | 4.1 | 187,951 | 190,083 | 2,132 | 1.1 | 109,807 | 112,392 | 2,585 | 2.4 |
| | | 減価償却費 | 93,722 | 100,013 | 6,291 | 6.7 | 38,735 | 38,948 | 213 | 0.5 | 29,114 | 29,010 | 104 | 0.4 |
| | 計 | 1,783,363 | 1,877,192 | 93,829 | 5.3 | 883,039 | 893,351 | 10,312 | 1.2 | 581,838 | 590,279 | 8,441 | 1.5 | |
| 医業外費用(支払利息等) | 34,693 | 32,498 | 2,195 | 6.3 | 13,613 | 13,343 | 270 | 2.0 | 12,406 | 11,456 | 950 | 7.7 | | |
| 合計 | 1,818,055 | 1,909,690 | 91,635 | 5.0 | 896,652 | 906,694 | 10,042 | 1.1 | 594,244 | 601,735 | 7,491 | 1.3 | | |
| 経常利益 | 67,946 | 44,414 | 23,532 | 34.6 | 61,120 | 58,262 | 2,858 | 4.7 | 22,884 | 16,475 | 6,409 | 28.0 | | |

注 1) 100 床あたりの収支状況の算出式 = 各年度の項目の平均額 ÷ 各年度の平均病床数 × 100 注 2) 給食材料費は、委託給食費を含む 注 3) 数値は四捨五入のため、内訳の合計が合わない場合がある



(図表6) 病院類型別の収支状況(構成比等)

| 区 分 | | | 一般病院 | | | 療養型病院 | | | 精神科病院 | | |
|-------|----------------------|------------------|---------|---------|--------------|--------|--------|--------------|--------|--------|--------------|
| | | | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 (ポイント) | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 (ポイント) | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 (ポイント) |
| 収支の状況 | 収益 | 総収益 | 97.4 | 97.3 | 0.1 | 97.6 | 97.3 | 0.3 | 96.4 | 96.9 | 0.5 |
| | | 構成比 | | | | | | | | | |
| | | 医業収益 | 97.4 | 97.3 | 0.1 | 97.6 | 97.3 | 0.3 | 96.4 | 96.9 | 0.5 |
| | 費用 | 人件費 | 51.3 | 52.0 | 0.7 | 57.1 | 57.9 | 0.8 | 60.5 | 61.3 | 0.8 |
| | | 医療材料費 | 20.8 | 21.4 | 0.6 | 9.3 | 8.9 | 0.4 | 8.1 | 8.0 | 0.1 |
| | | 給食材料費 | 1.7 | 1.7 | 0.0 | 3.6 | 3.5 | 0.1 | 5.2 | 5.2 | 0.0 |
| | | (入院患者1人1日あたり)(円) | (1,095) | (1,124) | 29 | (995) | (995) | 0 | (930) | (937) | 7 |
| | | 経費 | 17.8 | 17.9 | 0.1 | 20.0 | 20.1 | 0.1 | 18.3 | 18.7 | 0.4 |
| | | 減価償却費 | 5.1 | 5.2 | 0.1 | 4.1 | 4.1 | 0.0 | 4.8 | 4.8 | 0.0 |
| | | 計 | 96.7 | 98.2 | 1.5 | 94.1 | 94.6 | 0.5 | 96.9 | 98.0 | 1.1 |
| | 損益分岐点比率 | 96.9 | 98.9 | 2.0 | 94.1 | 94.6 | 0.5 | 97.5 | 98.8 | 1.3 | |
| | 経常収益対支払利息率 | 1.0 | 0.9 | 0.1 | 0.9 | 0.8 | 0.1 | 1.0 | 1.0 | 0.0 | |
| | 医業収益対医業利益率 | 3.3 | 1.8 | 1.5 | 5.9 | 5.4 | 0.5 | 3.1 | 2.0 | 1.1 | |
| | 経常収益対経常利益率 | 3.6 | 2.3 | 1.3 | 6.4 | 6.0 | 0.4 | 3.7 | 2.7 | 1.0 | |
| | 収益率{1-(総費用/総収益)}×100 | 2.8 | 1.5 | 1.3 | 5.8 | 5.6 | 0.2 | 3.2 | 1.9 | 1.3 | |
| | 従事者1人あたり年間医業収益 | 12,033 | 12,020 | 13 | 8,947 | 8,872 | 75 | 8,615 | 8,596 | 19 | |
| | 労働生産性 | 6,567 | 6,460 | 107 | 5,637 | 5,619 | 18 | 5,478 | 5,442 | 36 | |
| | 従事者1人あたり人件費 | 6,172 | 6,248 | 76 | 5,111 | 5,140 | 29 | 5,208 | 5,270 | 62 | |
| | 労働分配率 | 94.0 | 96.7 | 2.7 | 90.7 | 91.5 | 0.8 | 95.1 | 96.8 | 1.7 | |

注1)「従事者1人あたり年間医業収益」、「労働生産性」および「従事者1人あたり人件費」は、常勤従事者数(非常勤従事者の常勤換算後の従事者数を含む)により算出 注2)給食材料費は、委託給食費を含む 注3)数値は四捨五入のため、内訳の合計が合わない場合がある

(2) 療養型病院の収支状況

【「経常収益対経常利益率」は6.0%に低下するも依然高い利益率を維持】

療養型病院については、「100床あたりの入院収益」は前年度比で1.3%増加するものの、「100床あたりの外来収益」は3.5%減少したこともあり、「100床あたり医業収益合計」は0.6%の増加にとどまっている。一方、経費の面では「100床あたり医療材料費」は前年度比で3.4%、

「100床あたり給食材料費」は0.6%減少したものの、「100床あたり人件費」は、前年度比で2.1%、「100床あたり経費」は1.1%、「100床あたり減価償却費」は0.5%増加したこともあり、「100床あたり医業費用合計」は1.2%増加している。収益と費用を金額ベースに換算すると、「100床あたりの医業収益合計」は6,094千円増加、「100床あたりの医業費用合計」は10,312千円増加となった。結果として、「医業

収益対医業利益率」は、前年度より0.5ポイント低下し5.4%、「経常収益対経常利益率」は、前年度より0.4ポイント低下し6.0%となった。療養型病院の利益率は前年度比でやや低下しているが、一般病院と比較すると、依然として高い利益率を得ていることがうかがえる。

(3) 精神科病院の収支状況

【「経常収益対経常利益率」は2.7%に低下】

精神科病院については、「100床あたりの入院収益」は前年度比で0.7%増加するものの、「100床あたりの外来収益」は1.6%減少したこともあり、「100床あたり医業収益合計」は0.3%の増加にとどまっている。一方、経費の面では「100床あたり医療材料費」は前年度比で0.6%、「100床あたり減価償却費」は0.4%減少したものの、「100床あたり人件費」は、前年度比で1.7%、「100床あたり給食材料費」は0.4%、「100床あたり経費」は2.4%増加したこともあり、「100床あたり医業費用合計」は1.5%増加している。収益と費用を金額ベースに換算すると、

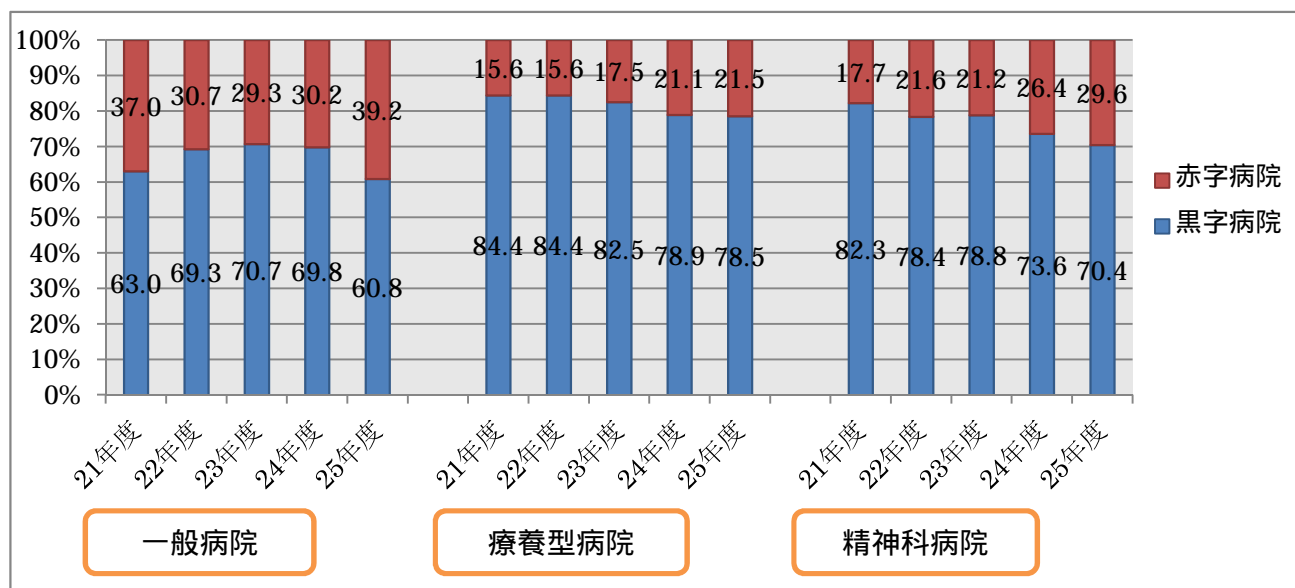
「100床あたりの医業収益合計」は1,659千円増加、「100床あたりの医業費用合計」は8,441千円増加となった。結果として、「医業収益対医業利益率」は、前年度より1.1ポイント低下し2.0%、「経常収益対経常利益率」は、前年度より1.0ポイント低下し2.7%となった。精神科病院の収支状況については機能性と同様に、あまり大きな動きはないことがうかがえる。

(4) 黒字・赤字構成割合の推移

【赤字病院の割合は軒並み増加傾向。一般病院では約4割赤字】

各病院類型における黒字・赤字の構成割合の推移は、図表7のとおりとなっている。平成25年度では、いずれの病院類型ともに赤字病院の割合は増加している。特に一般病院の赤字病院の割合については、前年度比9.0ポイント上昇し39.2%となり、過去5年間で最も高い割合となった。前述のとおり、人件費を中心とする費用の増加が経営を圧迫しているものと推測される。

(図表7) 黒字・赤字別構成割合の推移(病院類型別)



注1) 収益率が0以上のものを黒字施設、0よりも小さいものを赤字施設 注2) 収益率 = {1 - (総費用 ÷ 総収益)}

さらに平成 26 年 4 月には診療報酬改定に加え、消費税率も 8%へとアップしている。平成 26 年 10 月に実施した当機構のアンケート¹においても、消費増税の影響により費用増は避けられないとの回答が多数であった。こうした状況を踏まえると、平成 26 年度の経営環境はさらに厳しくなっているものと考えられる。アンケートでは収入増に対する対策として入院基本料等の切り替えや増床・稼働病床の増加、一方、費用減に対する対策として医薬品・医療材

料費削減などといった方策が回答として寄せられていたが、病院にはより一層の経営努力が求められることとなる。果たして赤字病院の増加に歯止めがかかるのか否か、引き続き注目されるところである。

4. 財務の状況

各病院類型における平成 24 年度および 25 年度の病床 1 床あたりの財務の状況については、図表 8 のとおりとなっている。

(図表 8) 病院類型別の財務状況

| < 病床 1 床あたりの資産、負債・資本 > | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--------|----------------|--------------|---------|--------|--------------|---------|--------|--------------|---------|-----|
| 区 分 | 一般病院 | | | 療養型病院 | | | 精神科病院 | | | | |
| | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 (ポイント) | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 (ポイント) | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 (ポイント) | | |
| 施設数 | 737 | 744 | - | 518 | 521 | - | 293 | 279 | - | | |
| 平均病床数 | 180.6 | 185.2 | - | 148.9 | 148.9 | - | 282.1 | 286.9 | - | | |
| 病床1床あたりの資産、負債・資本 | 資産 | 流動資産 (千円) | 8,423 | 8,526 | 103 | 4,999 | 4,937 | 63 | 3,396 | 3,132 | 263 |
| | | 固定資産 (千円) | 13,549 | 14,240 | 692 | 7,298 | 7,709 | 412 | 6,209 | 6,539 | 330 |
| | | 繰延資産 (千円) | 63 | 74 | 11 | 23 | 20 | 3 | 20 | 12 | 7 |
| | | 合 計 (千円) | 22,034 | 22,840 | 806 | 12,320 | 12,666 | 346 | 9,624 | 9,684 | 60 |
| 負債・資本 | 負債・資本 | 流動負債 (千円) | 6,154 | 6,343 | 189 | 2,679 | 2,552 | 127 | 1,312 | 1,381 | 69 |
| | | (うち短期借入金) (千円) | (3,402) | (3,514) | 112 | (1,548) | (1,341) | 207 | (743) | (750) | 8 |
| | | 固定負債 (千円) | 9,955 | 10,293 | 339 | 4,418 | 4,354 | 65 | 3,574 | 3,566 | 8 |
| | | (うち長期借入金) (千円) | (8,530) | (8,814) | 285 | (3,992) | (3,925) | 67 | (3,277) | (3,192) | 85 |
| | | 負債計 (千円) | 16,108 | 16,636 | 528 | 7,097 | 6,906 | 192 | 4,885 | 4,947 | 61 |
| | | 資本 (千円) | 5,926 | 6,204 | 278 | 5,223 | 5,726 | 504 | 4,739 | 4,737 | 1 |
| 負債・資本合計 (千円) | 22,034 | 22,840 | 806 | 12,320 | 12,632 | 312 | 9,624 | 9,684 | 60 | | |
| < 財務比率 > | | | | | | | | | | | |
| 自己資本比率 (%) | 26.9 | 27.2 | 0.3 | 42.4 | 45.3 | 2.9 | 49.2 | 48.9 | 0.3 | | |
| 固定長期適合率 (%) | 85.3 | 86.3 | 1.0 | 75.7 | 76.5 | 0.8 | 74.7 | 78.8 | 4.1 | | |
| 流動比率 (%) | 136.9 | 134.4 | 2.5 | 186.6 | 193.4 | 6.8 | 258.9 | 226.8 | 32.0 | | |
| 借入金比率 (%) | 45.8 | 45.8 | 0.0 | 42.3 | 41.4 | 0.9 | 54.3 | 52.9 | 1.5 | | |
| 総資本回転率 (回) | 0.84 | 0.84 | 0.0 | 0.77 | 0.75 | 0.0 | 0.63 | 0.62 | 0.0 | | |
| 固定資産回転率 (回) | 1.37 | 1.35 | 0.02 | 1.29 | 1.23 | 0.06 | 0.97 | 0.92 | 0.05 | | |
| 建物回転率 (回) | 2.36 | 2.33 | 0.03 | 2.23 | 2.19 | 0.04 | 1.52 | 1.47 | 0.04 | | |
| 総資本営業利益率 (%) | 2.9 | 1.6 | 1.4 | 4.4 | 4.0 | 0.4 | 1.9 | 1.2 | 0.7 | | |

注) 数値は四捨五入のため、内訳の合計が合わない場合がある

¹ 「第 2 回 平成 26 年度診療報酬改定等の影響に関するアンケートの分析結果について」は、独立行政法人福祉医療機構のホームページで公表しています <http://hp.wam.go.jp/tabid/1853/Default.aspx>

(1) 一般病院の財務状況

【一部には消費増税を視野に入れた駆け込み需要等も】

一般病院における平成 25 年度の財務状況については、「固定資産」(14,240 千円：前年度比 692 千円増)や「固定負債」(10,293 千円：前年度比 339 千円増)を中心に前年度比で増加しており、さらに図表 5 一般病院の「減価償却費」(平成 25 年度：100,013 千円、前年度比 6,291 千円増)の増加を踏まえると、設備投資が継続して行われているものと推測される。建築費の高騰が資産や負債に反映したことに加え、一部には平成 26 年 4 月の消費増税を視野に入れた駆け込みでの建築投資等があったものと思料される。

(2) 療養型病院および精神科病院の財務状況

【経営面におけるプラス材料は少なく、大規模投資はみられず】

療養型病院、精神科病院における平成 25 年度の財務状況については、ともに「固定資産」(療養 7,709 千円：前年度比 412 千円増)(精神 6,539 千円：前年度比 330 千円増)はやや増加しているものの、「固定負債」(療養 4,354 千円：前年度比 65 千円減)(精神 3,566 千円：前年度比 8 千円減)は増加しておらず、手元現預金の範囲での投資のとどまっているものと推測される。経営面においてプラス材料の少ないことに加え、さらに建築費の高騰等が大規模投資を抑制する要因となっているものと思料される。

思われる。一部例外もあるが、いずれの病棟においても在宅復帰が評価される仕組みであり、療養病棟においても新たな加算項目として「在宅復帰機能強化加算」が新設されている。こうした状況のなか、従前より在宅復帰機能を有し、その中心的な役割を担ってきたのが回復期リハビリテーション病棟である。平成 12 年に創設され図表 9 のとおり、その数を着実に伸ばしている。一方、地域によっては業界団体が掲げる整備目標を大きく上回る場所もあり、患者確保に向けた競争も激化しているともいわれている。そこで本章では当機構のデータを用いて、回復期リハビリテーション病棟を算定する病院の経営状況等について分析を行った。

(2) 機能性

【従事者数の増加を背景に機能性は向上】

平成 24 年度および 25 年度の回復期リハビリテーション病院における機能性については、図表 10 のとおりとなっている。平成 25 年度は理学療法士 26.7 人(対前年度増減率 8.5%増)を中心に従事者数は増加しており、これらを背景に「患者 1 人 1 日あたり医業収益(入院)」は 36,172 円(対前年度増減率 2.1%増)、「患者 1 人 1 日あたり医業収益(外来)」は 10,489 円(対前年度増減率 3.6%増)ともに増加している。また、「平均在院日数」は 0.9 日短縮するなど、機能性の向上が図られていることがうかがえる。

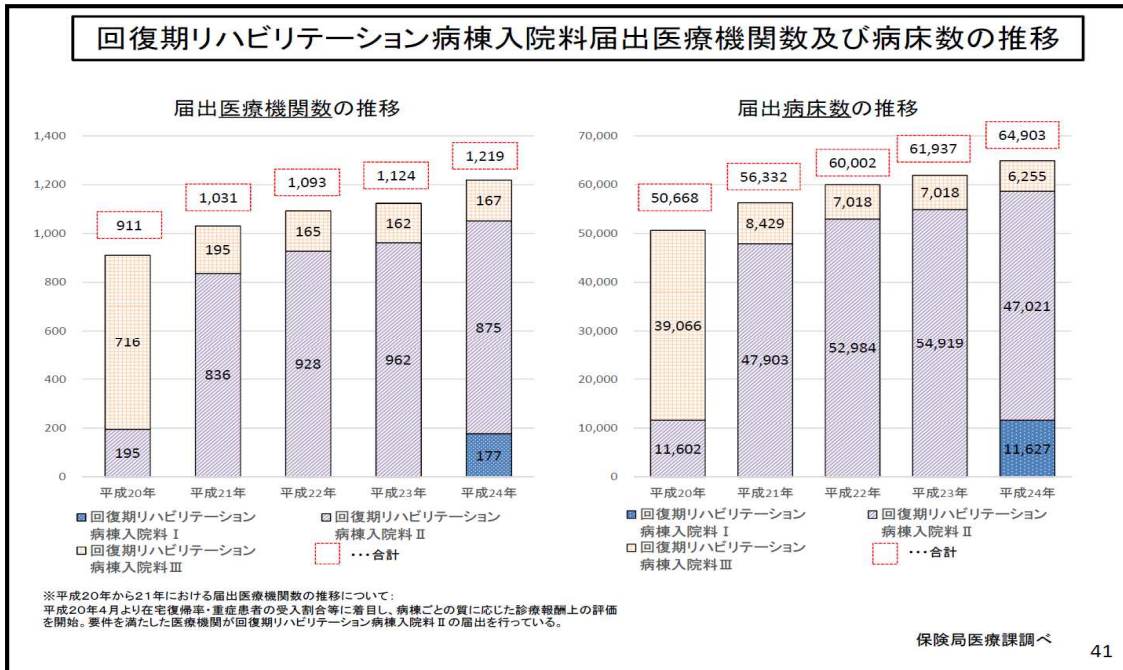
5. 回復期リハビリテーション病棟の状況

(1) 概要

【着実に整備される一方、地域によっては競争も激化か】

平成 26 年度診療報酬改定の主要なポイントの一つに、在宅復帰機能の評価があることと

(図表9) 回復期リハビリテーション病棟入院料届出医療機関数および病床数の推移



資料出所：厚生労働省「中医協総会（第262回）平成25年12月4日」

(図表10) 回復期リハビリテーション病院の機能性

| 区 分 | | 回復期リハビリテーション病院 | | | | |
|---------------|----------------|----------------|--------|--------------|-------------|-----|
| | | 平成24年度 | 平成25年度 | 増減 (ポイント) | 対前年度 増減率 | |
| 施設数 | (施設) | 390 | 410 | - | - | |
| 平均病床数 | (床) | 205.0 | 207.2 | 2.2 | 1.1 | |
| 病床利用率 | (%) | 86.1 | 85.6 | 0.5 | - | |
| 平均在院日数 | (日) | 34.6 | 33.7 | 0.9 | 2.6 | |
| 入院外来比 | | 1.19 | 1.18 | 0.01 | 0.8 | |
| 新患率 | (%) | 9.3 | 9.1 | 0.2 | - | |
| 1日平均患者数 | 入院 | (人) | 176.5 | 177.4 | 0.9 | 0.5 |
| | 外来 | (人) | 209.4 | 210.0 | 0.6 | 0.3 |
| 病床1床あたり年間医業収益 | | (千円) | 14,855 | 15,174 | 319 | 2.1 |
| 患者1人1日あたり医業収益 | 入院 | (円) | 35,411 | 36,172 | 761 | 2.1 |
| | (うち室料差額) | (円) | (613) | (624) | 11 | 1.8 |
| | 外来 | (円) | 10,122 | 10,489 | 367 | 3.6 |
| 1施設あたり従事者数 | 医師 | (人) | 20.8 | 21.7 | 0.9 | 4.3 |
| | 看護師・准看護師・看護補助者 | (人) | 151.6 | 155.1 | 3.5 | 2.3 |
| | 理学療法士 | (人) | 24.6 | 26.7 | 2.1 | 8.5 |
| | 作業療法士 | (人) | 14.7 | 15.1 | 0.4 | 2.7 |
| | 言語聴覚士 | (人) | 5.7 | 6.1 | 0.4 | 7.0 |
| | その他 | (人) | 78.4 | 83.1 | 4.7 | 6.0 |
| 計 | | (人) | 295.8 | 307.8 | 12.0 | 4.1 |

注1) 回復期リハビリテーション病棟を算定している病院を回復期リハビリテーション病院と定義 注2) 「1施設あたり従事者数」は、常勤従事者数(非常勤従事者の常勤換算後の従事者数を含む)により算出 注3) 数値は四捨五入のため、内訳の合計が合わない場合がある

(3) 収支状況

【専門特化することで利益率は上昇、「100床以上199床以下」が適正な規模か】

回復期リハビリテーション病院における平成25年度の100床あたりの収支状況については、図表11のとおりとなっている。ここでは総床に占める回復期リハビリテーション病床が50%以下の病院を「回り八病院」、50%超の病院を「回り八専門病院」と分類し、比較分析を行った。

結論からいえば、「回り八専門病院」は非常に利益率が高いものと認識される。収益こそ

1,420,775千円と「回り八病院」の1,561,615千円に比べ140,840千円ほど低いものの、経常利益は128,478千円となり、「回り八病院」の42,681千円を大きく上回っている。もう少し細かくチェックすると、86.1%と入院収益割合の高い「回り八専門病院」は、人件費率も61.0%と高い反面、医療材料費率は5.1%と低く、経常利益率は9.0%と高い収支構造となっている。総床に占める回り八病床の割合による比較分析を行ったが、ここで分類した「回り八病院」はどちらかといえば前述の「一般病院」に近い収支状況といえる。

(図表11) 100床あたりの収支状況(回復期リハビリテーション病院)

(収益と費用の単位:千円)

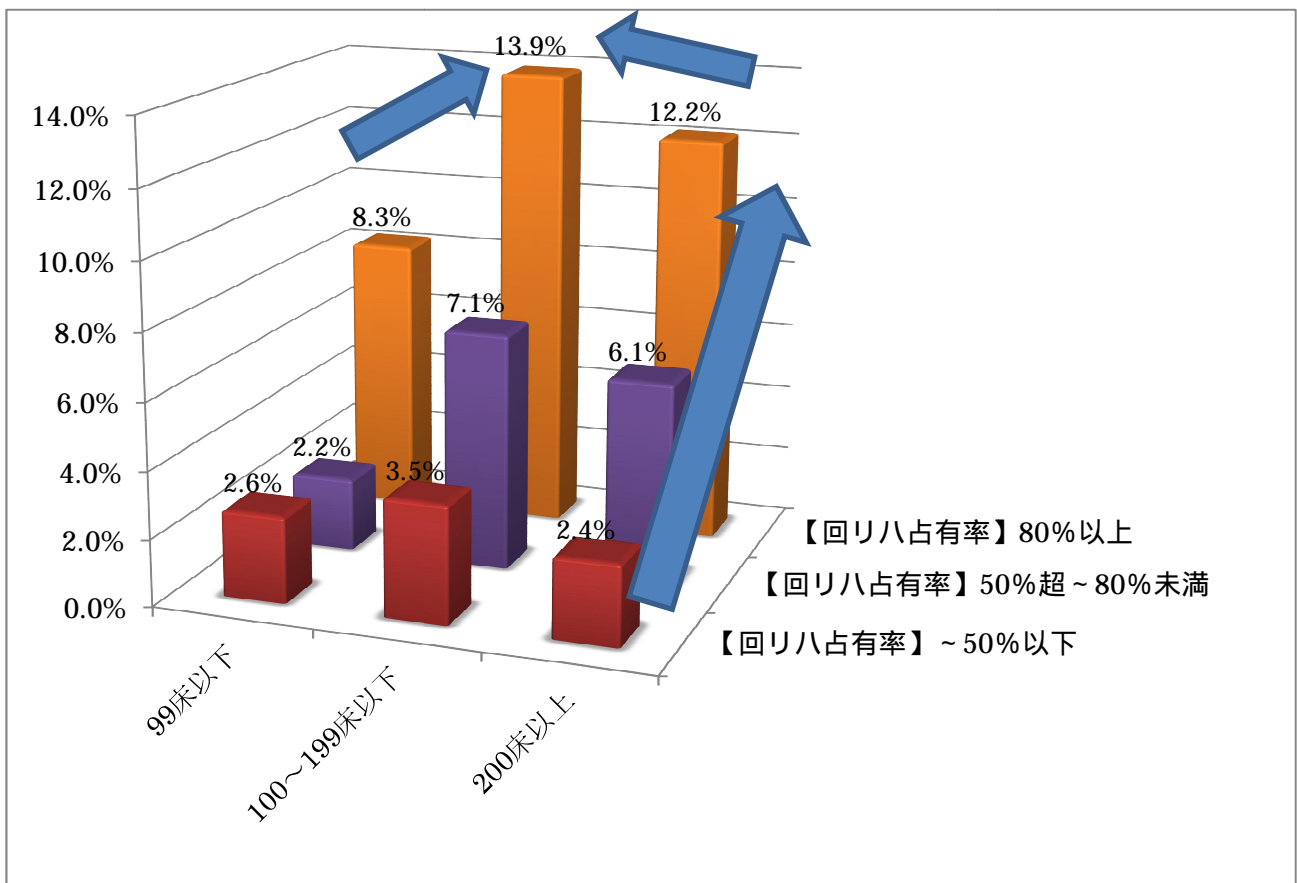
| 区分 | | 総数 | | 回り八病院 | | 回り八専門病院 | | |
|-------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| | | 平成25年度 | 構成比率(%) | 平成25年度 | 構成比率(%) | 平成25年度 | 構成比率(%) | |
| 施設数 | | 410 | - | 332 | - | 78 | - | |
| 平均病床数 | | 207.2 | - | 227.1 | - | 122.4 | - | |
| 収益 | 医業収益 | 入院収益 | 1,130,241 | 74.5% | 1,120,841 | 73.2% | 1,205,369 | 86.1% |
| | | 外来収益 | 308,339 | 20.3% | 330,477 | 21.6% | 133,759 | 9.6% |
| | | その他の医業収益 | 78,637 | 5.2% | 80,926 | 5.3% | 60,627 | 4.3% |
| | 計 | 1,517,217 | 100.0% | 1,532,244 | 100.0% | 1,399,755 | 100.0% | |
| 医業外収益 | | 25,938 | - | 29,371 | - | 21,020 | - | |
| 合計 | | 1,545,647 | - | 1,561,615 | - | 1,420,775 | - | |
| 費用 | 医業費用 | 人件費 | 852,934 | 56.2% | 852,956 | 55.7% | 853,438 | 61.0% |
| | | 医療材料費 | 208,330 | 13.7% | 248,285 | 16.2% | 70,997 | 5.1% |
| | | 給食材料費 | 35,238 | 2.3% | 34,517 | 2.3% | 40,963 | 2.9% |
| | | 経費 | 280,827 | 18.5% | 284,686 | 18.6% | 250,576 | 17.9% |
| | | 減価償却費 | 73,288 | 4.8% | 75,489 | 4.9% | 55,964 | 4.0% |
| | 計 | 1,470,627 | 95.6% | 1,495,934 | 97.6% | 1,271,938 | 90.9% | |
| | 医業外費用(支払利息等) | | 20,712 | - | 23,000 | - | 20,359 | - |
| 合計 | | 1,493,329 | - | 1,518,934 | - | 1,292,297 | - | |
| 経常利益 | | 52,318 | 3.4% | 42,681 | 2.7% | 128,478 | 9.0% | |

注1) 総床に占める回り八病床が50%以下を回り八病院、50%超を回り八専門病院と定義
 注2) 100床あたりの収支状況の算出式 = 各年度の項目の平均額 ÷ 各年度の平均病床数 × 100
 注3) 給食材料費は、委託給食費を含む
 注4) 数値は四捨五入のため、内訳の合計が合わない場合がある

さらに病床規模別の総床に占める回復期リハビリテーション病床割合（以下、回り八占有率）と経常利益率の関係を示したのが、図表 12 となっている。なお、ここでは回り八占有率を「50%以下」、「50%超～80%未満」、「80%以上」の3つに分類し、比較分析を行った。一部例外はあるものの、いずれの規模においても回り八占有率が高まるほど、経常利益率は上昇する傾向となっている。一方、病床規模に関しては、必ずしも病床規模が大きくなるほど、経常利益率も上昇するといった訳ではない。一般的には病院経営におけるスケールメリットはあると

いわれているが、回復期リハビリテーション病院に関して、当機構のデータではそうした傾向はみられなかった。病床規模については、「100床以上199床以下」の経常利益率が最も高くなっている。病床規模「200床以上」の病院における回復期リハビリテーション病床の運営については、利益率の低い一般病床との組み合わせにおいて運営されることが多いものと思料される。よって「100床以上199床以下」に比べ、経常利益率は低下しているものと推測される。

（図表 12）病床規模別回り八占有率と経常利益率（回復期リハビリテーション病院）



注）総床に占める回復期リハビリテーション病棟（病床割合）を回り八占有率と定義

おわりに

【平成 25 年度は費用増もあり経常利益率は前年度比でマイナス傾向。次年度はさらに真価が問われるもの】

当機構では毎年度、病院を「一般病院」、「療養型病院」および「精神科病院」の3種類に分類したうえで各種分析を行っているが、今次レポートではさらに「回復期リハビリテーション病院」にスポットをあて分析を行った。

病院類型別の収支状況については、「一般病院」では収益増となったものの、「療養型病院」、「精神科病院」では微増にとどまった。一方、費用については、各病院類型とも人件費を中心に費用増となり、全般的に経常利益率は前年度比でマイナス傾向となった。特に従事者数については、病院類型別に関係なく軒並み増加しており、このあたりが費用増の要因と思料される。

「回復期リハビリテーション病院」については、経年で機能性は向上しており、さらに回復期リハビリテーションに専門特化することで

利益率は上昇する傾向となった。ただし、病床規模に関して当機構のデータでは、「100床以上199床以下」が最も経常利益率が高くなっており、規模拡大が必ずしも利益率の上昇に結びついていない結果となった。

前述のとおり、平成 26 年 4 月より診療報酬改定と消費税率 8%がスタートし、病院は益々厳しい状況下に置かれている。果たして病院経営や病院類型にどのように変化を及ぼすのか、また機能性や収支状況、従事者数等にどう影響を及ぼすのか、大いに注目されるところである。

さらに平成 27 年度には地域医療ビジョンもスタートする。地域における医療ニーズの把握や将来見通しはもとより、自病院の強み・弱み等の分析、さらには競合先や連携先の医療機関等の状況把握など、幅広い経営能力が問われることとなる。こうした状況より、病院にとってはその在り方を含め、まさに真価が問われる時期に来ているものと思料される。

本資料は情報の提供のみを目的としたものであり、借入など何らかの行動を勧誘するものではありません

本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、情報については、その完全性・正確性を保証するものではありません

本資料における見解に関する部分については、著者の個人的所見であり、独立行政法人福祉医療機構の見解ではありません

経営指標の算式は、下記リンク先の PDF にて確認いただけます

<http://hp.wam.go.jp/Portals/0/docs/gyoumu/keiei/pdf/h25-byouin.pdf#page=7>

本レポートで使用したデータを含む各種施設の経営指標については、「経営分析参考指標」として CD-ROM で有料頒布しています <http://hp.wam.go.jp/tabid/1976/Default.aspx>

本件に関するお問い合わせ

独立行政法人福祉医療機構

経営サポートセンター リサーチグループ

TEL : 03-3438-9932 FAX : 03-3438-0371

E-mail : wam_sc@wam.go.jp